

コンピュータウイルスを知る！

怖さを知る

ウイルス被害を避けるために何をしたらいいのか。ウイルス対策ソフトを導入することはもちろんですが、まず第一歩はウイルスの怖さを知って「対策は不可欠」だと認識することです。数あるウイルスを一つひとつ理解する必要はありません。ウイルスが引き起こす主な被害を知るだけでも十分です。

「ハードディスクを破壊する」「システムを起動不能にする」といった被害は致命的です。元の状態に戻すのはかなり困難になります。他のシステムに無差別攻撃を仕掛けたり、ウイルスメールをばらまくウイルスに感染すると、他人からの苦情が相次ぎ謝罪を要求される可能性があります。

ファイルを盗むウイルスに感染した場合に起こる被害は、ウイルスが盗んだファイルが契約書や会社の書類だった場合、高い確率であなたの実名や会社名などがばれます。他にも、クレジット情報やユーザーIDパスワード情報を記録したファイルまで盗まれる可能性があります。

ウイルスがもたらす主な被害

不特定多数に
ウイルス付きメールを
大量に送る



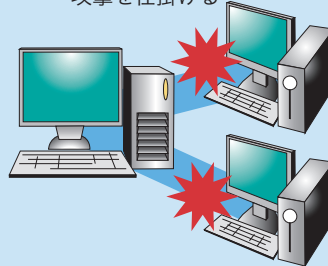
重要なデータや
ファイルを盗む



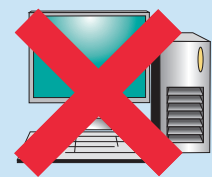
ハードディスク内の
データを破壊する



他のシステムに次々に
攻撃を仕掛ける



システムを
起動不能にする



ウイルスが使ってくるだましのテクニック

メールで送られてくるウイルスは、後を絶ちません。メールに添付されるウイルスの場合の多くは、ユーザーが添付ファイルを実行しない限り感染しません。このため、ユーザーに添付ファイルを実行させる“だまし”のテクニックを入れ込んであるウイルスメールがほとんどです。

クリックを誘う魅力的な件名や添付ファイル名にするのは当たり前になってきています。ウイルスプログラムでありながら、テキストデータや画像ファイルに見せかけているものもあります。この他にも有名企業を装って実行を促したり、セキュリティの警告を装っていることもあります。多くは英語メールですが、件名が日本語のウイルスも存在しています。

最近増えてきたのが、メールの送り主を偽るウイルス(KlezやNetsky)です。感染したユーザーのアドレス帳の中にあるアドレスから送ったりするため、ウイルスに感染している本当のユーザーを特定できず、ウイルス警告メールを送っても相手先は、ウイルス感染していない場合がほとんどです。

メールの送り主を知り合いにする

クリックを誘う件名やファイル名

プログラムをテキストデータや
画像ファイルに見せかける

マイクロソフトなどの
有名企業からのメールを装う

ウイルスやセキュリティを
警告するメールを装う

メールの送信元アドレスを偽る

編集者より：有田コンピュータのホームページを改装しています。今までのアリコン通信が読める様になっていますので、暇な時にでもご覧になってください。（田中）